

事業名	国営総合農地防災事業	地区名	新 濃 尾
都道府県名	岐阜県、愛知県	関係市町村	岐阜県: 岐阜市、羽島市、各務原市、岐南町、笠松町、柳津町 愛知県: 名古屋市、一宮市、春日井市、津島市、犬山市、江南市、 尾西市、小牧市、稲沢市、岩倉市、豊山町、師勝町、西春町 春日町、清洲町、新川町、大口町、扶桑町、木曽川町、 祖父江町、平和町、七宝町、美和町、甚目寺町、大治町 蟹江町、佐織町 (13市20町)
事業概要	1. 事業目的 本地域は、木曽川両岸に広がる濃尾平野の中央に位置し、木曽川を水源とする岐阜県岐阜市外2市3町及び愛知県名古屋市外9市17町におよぶ約11,110haの地域で、国営濃尾用水事業(S32～42)によって犬山頭首工及び宮田導水路等の幹線用水施設の整備がなされ地域農業の発展に大きく寄与してきた。 しかし、昭和30年代に施工された犬山頭首工は、木曽川の河床低下、洪水等自然条件の影響を受けて施設の機能が低下しており、補修が必要となっている。また、各幹線用水路は、水路周辺の都市化・混住化に伴い家庭雑排水等の流入による水質汚濁及びゴミ投棄による安全・安定通水の障害等が発生している。さらに、国営濃尾用水第二期事業(S44～62)により用水路が整備(用排水分離)され、排水専用水路として残された大江排水路については、流域の都市化の進行等による降雨時の流出形態の変化により排水機能が低下している。 このため、本事業により犬山頭首工の補修、各幹線用水路及び大江排水路の改修を行い、農業水利施設の機能を回復し災害を防止することにより、農業生産の維持及び農業経営の安定化を図り、併せて国土の保全に資することを目的としている。 2. 事業の内容等 受益面積 11,110ha (田:10,160ha、畑:950ha) 主要工事計画 頭首工補修一式 幹線用水路改修 31.8km、排水路改修 16.7km 総事業費 88,000百万円 (H15年度時点 84,970百万円) うち一期事業 53,700百万円 (H15年度時点 50,670百万円) 二期事業 34,300百万円 (H15年度時点 34,300百万円) 事業工期 平成10年度～平成26年度予定 (一期事業は平成21年度まで)		
評価	【事業の進捗状況】 本事業は平成10年度に着工し、平成14年度末までに事業費^ハ-スでは135億円(平成15年度総事業費850億円に対して16%の進捗)、事業量^ハ-スでは幹線用水路6.6km、排水路2.7km(幹線用水路総延長31.8kmに対して21%、排水路総延長16.7kmに対して16%の進捗)を実施している。 現在は、一期事業(平成15年度総事業費507億円)のみを実施中であり、一期事業での進捗率は事業費^ハ-スで26%、事業量^ハ-スでは用水路22kmに対して30%、排水路16.7kmに対して16%である。 これは、概ね計画どおりの進捗である。		
項目	【関連事業の進捗状況】 関連事業としては、県営水質保全対策事業12地区(受益面積計1,322ha、総事業費計20,816百万円)、国営附帯農地防災事業2地区(受益面積計1,512ha、総事業費計10,090百万円)の14地区であり、現在6地区が実施中である。 なお、平成14年度末における関連事業全体での進捗率は19%である。		
目	【社会経済情勢の変化】 一般社会経済情勢としては、関係するほとんどの市町で人口が増加している(2000年は1995年と比較し1.5%増加(約6.1万人程度))。 また、産業別就業人口については、第1次産業(2000年は1995年の82%に減少)、第2次産業(同92%に減少)はともに減少しているが、第3次産業は増加している(同102%に増加)。		

評価項目	農業情勢としては、耕地面積（2000年は1995年の92％に減少）、農家戸数（同92％に減少）、農業就業人口（同81％に減少）はともに減少しているが、経営規模が2.0ha以上の農家数（1995年347戸から2000年360戸）の増加や、トラクターの大型機械化（30PS以上のトラクター台数は2000年は1995年の135％に増加）等の傾向が見られ、経営の大規模化が着実に進んできている。 また、受益市町全体に比べ、受益地内水田の減少率は小さいことや受益市町は地域農業マスタープランに基づき、生産性の高い水稻経営の実現を目指していること、更には、なす、枝豆等の畑作物は、農業産出額が全国でも上位にランクされている市町もあるなど、今後とも本地区の農業は都市近郊農業として重要な役割を果たしていくものと考えられる。
	【事業計画の重要な部分の変更の必要性の有無】 犬山頭首工補修工事、用水路及び排水路改修は順調に進捗しており、事業施工に係る受益地、主要工事計画、事業費ともに事業計画の重要な部分の変更該当する変動はない。
	【費用対効果分析の基礎となる要因の変化】 本地区では、頭首工の補修及び用排水路の改修により農業水利施設の機能回復を図るとともに、農業生産の維持向上及び農業経営の安定化を事業効果として見込んでいる。 効果算定の基礎としている市町の各種振興計画については、農業情勢の変化に対応するために、現計画策定時から一部見直しが必要とされているが、基本方向も含め大きな変化は認められない。 作物別作付面積については、全体的に減少傾向にあるが、農産物価格については近年横ばい傾向にあり比較的安定した推移となっている。
	【環境との調和に対する配慮】 犬山頭首工補修工事及び用排水路改修工事については、関係市町が作成している田園環境整備マスタープランと整合を図り、景観や生態系等に配慮した事業実施を行っている。 犬山頭首工においては、特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオが生息していることから、専門家で構成される検討委員会において工事による影響の回避・低減手法等を定め、低振動工法とするなど、その生息に影響のないような配慮をして工事を実施している。 また、すでに左岸側には魚道があるが、さらに魚類の生息に配慮するため、新たに右岸側にも魚道を増設している。 用排水路改修工事では、県及び関係市町と連携して、改修後の用排水路用地を利用した周辺環境（景観）の整備を行うこととしている。 なお、大江排水路においては、土地改良区が地域住民、企業、行政で組織されるボランティア団体と連携し、堤防や水路内の清掃を行い、地域住民の環境への関心を高め、ゴミ投棄の抑止など、環境改善と排水路の管理手間の軽減が図られるよう活動している。
	【事業コスト縮減等の可能性】 これまででも新技術・新工法等の採用を行い、犬山頭首工本体の止水壁と工事期間中の仮締切工の兼用、大江排水路分流工における二次覆工省略型のシールド工の採用等、事業コスト縮減を図ってきている。 また、今後も事業の進捗に伴い、積極的にコスト縮減に取り組むこととする。
【関係団体の意向（概要）】 岐阜県、愛知県、関係市町及び関係土地改良区は、本事業は農業水利施設の機能回復を図り、災害の防止、農業生産の維持、農業経営の安定化のために必要不可欠としており、コスト縮減に努めつつ事業効果を早期に発現できるよう事業の推進を要望している。なお、一部の関係団体から二期事業の早期採択、水路の上部利用、生態系の保全、景観配慮等、環境に配慮した事業の推進、排水機能も考慮した用水路整備の検討等の要望が出されている。	
【評価項目のまとめ】 本地区は都市近郊に位置する農業地帯であるが、近年、都市化の進行、河床低下等の社会的、自然的状況の変化により施設の機能低下が進んでいる。本事業により農業水利施設の機能を回復し、農業被害や災害の防止を図ることは、農業生産を維持するとともに、地域の防災、更には環境改善を図る上で効果が大きいと見込まれ、地元関係団体の期待も大きい。現時点ではほぼ当初計画通りの進捗状況であり、今後とも計画に基づき事業を推進し、事業効果の早期発現を図る必要がある。	

【第三者委員会の意見】

本地域は、都市化が進む中であっても、優良な都市近郊農業地帯として今後も重要な役割を果たしていくことが期待される。この優良な農業地帯を維持していくためには、低下した農業水利施設の機能を回復し災害の防止を行う本事業は不可欠である。今後とも、自然生態系や環境に十分配慮し、一層のコスト縮減に努めつつ、事業効果の早期発現を図るためにも関連事業との連携をとりながら本事業を計画的に推進すべきである。

また、水質を保全し、施設の適切な維持管理のためにも、本地域の農業用水の歴史や地域に果たしている役割が広く理解されるよう、地域住民に積極的にＰＲされたい。

【事業の実施方針】

受益者及び関係団体との調整を図りながら、今後とも、より一層のコスト縮減に努めるとともに、環境との調和に配慮しつつ、事業効果の早期発現が図られるよう事業を着実に推進する。